

てあます	手におえぬ、容易ならぬ	でえだ	誰だ
でい	座敷 (わんでい、すたでい)	でえんだりけえ でえんだり	誰だり彼だり
でいろ	泥	でえど	大道
てうずてうず	照参 乳幼児に両手を打たせる動作	でえどご	台所
てえ	平	でえどばだ	街道のほとり
—でえ	ましよう、だろう(えぐべえでえ)	でえどめぐり	どうどうめぐり
てえつげらねえ	手にあまる	でえどめへ	露店、大道店
てえつげらねえ	〃	でえなす	だいなし
てえつげらねえ	〃	てえねえ	足りない
でえぎれえ	大嫌い	てえへえだ	大変だ(でえへえだつたますてえ 大変でした)
でえぐ	大工	てえへえんだ	〃
でえぐ	大工	てえもの	大きいもの
でえぐ	大黒、僧侶の妻	てえらに	平に
でえぐちよ	大工町	てえらにすてくねえ	安座にして下さい
でえぐつ	退屈	—てが	—というのか(そだてが)
—てえくて	たくて(えぎてえくてえ)	てかめぐ	まぶしい
てえご	太鼓	てがら(た参照)	女子後頭部に髪をたばねた上にまくきれて、たばねながと使用方法で材料相違
てえんご(に)	同じ位	てえだ	平である
てえんごくれえ	〃	でえごか	大根をまぜた飯
てえごてえごに	〃	でえごからみ	大根おろし
でえご	大根	でえごすげ	大根すけ
でえごか	大根	でえごでえごす	しまりなく肥っているさま
でえごからみ	大根おろし	でえさんねん	三年忌
でえごすげ	大根すけ	てえしよ	大將
でえごでえごす	大根すけ	でえじよぶ	大丈夫
でえさんねん	三年忌	てえす	費え、なくす(じえにてえすな)
てえしよ	大將	でえんす	大事
でえじよぶ	大丈夫	てえすこけえ	元三大師日のかゆ
てえす	費え、なくす(じえにてえすな)	てえそ	たいそう、非常に、多く
でえんす	大事	てえだ	平である

てがら	手がら	でくら	肥満(名詞)	でだす	朝たち
でがらげぎ	出不精	でくら	〃 (形容詞)	でだつす	―といていた(えねえ てだつけ)
てがらぼご	一本の麻の皮をはぎとつた糸の材料をぬらして8の字に手にまきつけたものを入る箱	でつけえす	大きい	でだます	出来あがりました(敬語)
てかり	月等の光るさま	てっかけ	手甲	てばめぐ	うるさく動き廻る
てんぎ	拍子木	てっかげ	〃	てつかみ	皿付き指輪
でぎだ(ねえ、る)	出来た、成就した	てこぎ	帯なしで幼児を背負うこと	てつけ	めかけ
でだ(ねえ、る)	〃	でこぼしやこぼ	凹凸、高低のあること	てつけ	手の不具者
てきばきす	敏活だ	てしいけえ	手をひく	てつけ	箸をつける
でぎぶつ	秀才	てんしゃば	停車場、駅	でっけり	沢山
でぎもの	でも	でずがみ	手掴み	てつて	幼児の手
でげる	優秀だ、出来る	でずでえ	底意地悪くいじめる	てつで	てついで、仕事のついで
でんぐす	格子	てずでえと	手伝い	てつとりばい	てつとりにて
でくそ	手あか	てずま	手伝人	てつばずわん	てつとりにて
でくそにす	もてあそぶ	てすりこつべ	手品	てつべ	てつとりにて
でぐのぼう	みにくい坊主頭	でだ(ねえ)	平身低頭、恐縮する	てばらこ	てつとりにて
		でだぐ	出来あがった、できた	てつぼ(つっぼ参照)	てつとりにて
			家財道具、手道具		てつとりにて

てっぽ	鉄砲、ほら	でんなすぎ	ひたい	でびだが	ひたいの高い人
てっぽこ	じゅばんの袖	でんび	〃	てびらがね	両手で打合せる鐘
てっぽだま	鉄砲玉のように行ったきり帰らぬさま	てね <small>のねに</small>	手拭	てひらこ	蝶
てっぽたれまげ	うそつき	てね	ていねい	てぶす	てくび、手の技術
てっぽぶず	狐師	でね	銭	てぶすけえ	仕事をしたくて落着いておれぬ
てっぽまげる	うそをつく	でねえ	出来ない、熟さない(でねえます)	てぶすばなれ	無手際
でつまる	糞尿逼迫	でねえます	出来ません、であります(敬語)	てぶつと	肥っている形
てで <small>(あ、お、ち、と参照)</small>	父	てのへなが	手の甲	てぶつばず	たらい
てでえこ	手代小僧	てば	というのに(やめろつてば)	てへえ	手配
てでぐ <small>(がねえ、きた)</small>	連れて行く(幼児語)	てばなかむ	〃(やめろでば)	てへえり	出入り
てでつぽつぽ	ほと、たんぽぽ	てばめがす	素手で鼻をかむ	てんぼくされ	不器用な人
てでなす	私生児	てばめぐ	いらぬおせっかいをする	てんぼなす	〃
てんと	技術、手際、業	てはり	落着なく行動するさま	てほげえ	出放題、勝手放題
でど	山の入口、転じて家の入口	ではる <small>(らねえ、れ)</small>	出口	てほでえ	格外、出放題
てどなす	技術なし	てびけえる	ひかえめにする	てまがしえ	出まかせ
てどなれえ	稽古	てひけえる	手を携える	てまどり	日雇
てなが	盗人				

てめえ	お前、てまい、こっち	でらめぐ	〃 (どうどうするさま)	てんじようぶぐ	威張るさま
てめえがす	手前がえし	でらばげ	禿頭	てんじよらぶぐ	〃
てめえもの	勝手者	でる(ねえ)	出来る、熟す	てんてこめえ	転手古舞
でめん	労働賃金(北海道へ出稼ぎ時の)	でれすけ	物の出来ぬ奴、血のめぐりの悪い者	てんでん	銘々に、別々に
—でも	ども、けれども	てろつと	さつと、光るさま	てんでんげえげえ	てんでんばらばら
てもずめえ	飯米	でらでら	〃 すべるさま	てんどこ	ゆび先の仕事
てよげ	手おけ	でろぼず	丸坊主	てんび	天秤
—てら	いっている(がこさ、え てら 学校へいっている こてら こいとさ)	てんき	晴天	てんぶくろ	手袋
てらずぎ	きつづぎ	でんきたま	電球	てんぼ	手のない人
てらつずぎ	〃	でんきばすら	電柱	てんぼしえん	天保銭、足りない人
でらすけ	全部、すつかり、根こそぎ、一面に	てんきり	この上なし	と	
てらつと	さつと	でんぐりけえ	ひっくり返る		
でらつと	〃	てんこきる	札をきる(トランプ等の札を交合せ合せる)		
でらり	〃	てんごさん	天狗さん	—ど	どの、家(亦助どのちゃ 亦助家の主人)
でらり	〃	てんこなんぼん	赤なんぼん	—ど(す参照)	—なそうだ(えぐど、え らねえど)。複義語(んな ど お前達、わらしやど 子供ら)
でらでら	粗雑	てんこもり	山もり	とあたず	野菜等の苔が立つこと、 婚期の後れた娘
てらめぐ	すべるさま、太陽のまぶしいさま	てんじよ	天上、天井		

とう	ずっと前(とうの昔)	とうすべ	通うしてやろう	とよ	種
とうが▲	唐鞆	どうすべ	どうしたらよいだらう	とえ	遠い
とうが	どうぞ	とうすわ	唐団扇、大きな団扇	とえぐ	遠く
とうがすば	どうかすれば	どうだべ	どうだらうか	どがこが	どうかこうか、やっと、辛うじて
とうご▲	道具	とうでえ	尊い	どかめぐ	動悸のはげしいさま
とうご	湯わかし兼用のかまど	どうでえ	どうだ	どがめぐ	そうぞうしい
とうざすげ	当座の漬物	どうでんさへしえる	驚かせる	どっから	どこから
どうしえ	どうせ、どうしたとて、いずれにしても	どうでんす	びっくりす、驚く	とがらがす	鋭利にする(くず、とがらがす 口をとがらす)
どうしえこしえ	ク	どんでにす	ク	とき	時
どうしえ	ク	どうどう(た参照)馬を静止させる掛声	ク	とき▲	とげ
とうじえこ	一歳の仔馬	とうどうど	遠路を	ときた▲	雄鶏早朝の啼き出し
どうす	くびれない白	とうどころど	ついに	ときたら	縄で作ったたわし
とうす	飾	どうのくぼう	ほんのくぼ後頭部	ときどり	一定の時間の間隔(ときどりきって、ねずあがる 一定間隔で熱があがる)
とうず	冬至	とうはぐ	当惑	ときに	話題転換冒頭語(ときに、いゝな、すてらべ)
どうす	癩病、及びその人	とうます	遠廻し	ときな	とうもろこし
どうす	同志、仲間、どのようにするつもりか	どうまだ	どうして、どうしてかと	とつきみ	
どうすてえ	どうしたのか	どうもは	どうもはや	どきょうなす	憶病者

とぐず	戸ぐち	どごさえぐ	どごへ行くのか	どさくさまぎれに	とりこみ中に、騒動中に
とずぐず	〃	どごさが	どごへか	どさこむ	狼狽する
とのぐず	〃	どごさだり	どごかまわずどごなり	どさつと	重いものの落ちるさま、
とぐずばだ	〃 の傍	どごさだり	自由だ	どさめぐ	沢山
とくつと	篤と	どごしえ	どごいしよの拍子がけ	どさへ	どしどし(音、重さ)するさま(荒々しさをも含む)
とつくびる	強くしめる、苦しめる	どごずあねえ	どごとなく	どしえごしえ	どうせこうせ、どうして
どぐふぐ	悪口をいう	どごどなぐ	〃	とじえん	たいくつ
とつくみいえ	格闘する	どごだりかごだり	あちらこちら	どんじよ	どじょう
どくめがす	ぐいぐいとどごをならして呑むさま	どごでもかごでも	〃	としよた	年老いた
とごや	床屋、理髪店	どごどり	どごを、何を、どのへんを(不明瞭な場合)(どごどりだが、わがらねえ)	どじよど	船をとる竹製の器具
とつけえす	取りかえす	とごとる	寝具をのべる	どしよぼね	悪い根性
とつけえす	取りかえす	どごに	どう致しまして、そんな事があるだろうか	どしよぼねわり	根性が悪い
とつけえす	交換える	どごにすて	〃	としより	年寄り
とげる	解ける、溶ける、落雷する	どごのしえげに	どごの世間に(そんな事がある筈がない)	とす(さねえ、しえ)通す	どうするか
とご	床	どごら	どごの辺	どす	通し、継続する時に使用する語(くられどすだ)
どご	何処、ところ	どごろ	かしゅういも	どす	通し、継続する時に使用する語(くられどすだ)
どご	(どごさえぐ)	どご	どごへ	どんずぎ	地固め
どごかご	特定の場所ではないが一部又は一帯				

どんずぎつき	地固め作業	どなた	どんな、どのような	とどんす	〃 (敬語)
とんずぐ	届く	どなたにす	どのようにするのか	どつちや	〃 (いずこへ) (どつちや、え ます、てあ)
とすげえ	年甲斐	どんだり	しばしば、たえず	どつちやぎめえ	襟や裾がだらしなく乱れ ていること
とすと	年越し	どんだれこだれ	漫に、いい位に	どつちやにも	どちらへも
とすな	しめなわ、年籠	どちや	どちらへ	どつつきあれえ	つまりあらい
とすな	通してはならない	どつちやげ	水中等から物を取りあげ る	どつつびる	おしつぶす、押える、何 ともいえずぬようにする、 補綴する
とすべ	通そう	どちやすがねえ	どつちにも決心がつか ねている	どつつめる	問いつめる、まとめる
とすまり	年まわり、年齢によつて 人間に吉凶ありとする慣 習で、男子四十二、女子 三十三を大厄とし、その 年を期して盛大な年祝を して厄払いをする。この 宴にはこの年の者及び前 後の者は出席を遠慮する ことになっている	どつかり	重荷を下ろした時の言葉	どつつらす	とり散らす
		どつき	性急で、粗忽	どつつりはんぶん	目分量で半分に分け る
		どつぐ	(がねえ、 きずれえ、け) 取りつく、つかま る	どつておぎ	よそ行きの着物、晴着
		どつくと	心から、よくよく	どつとぎ	〃
とすまり(つ参照) 戸じまり		どつくり(す参照) 〃	徳利	どつてくねえ	とつて下さい (敬語)
どすむ	黒ずむ	どつくみいえ	格闘	どつてごじえ	〃 (〃)
とすめ	とうしみ、灯芯	どつけえこ	交換すること	どつてもねえ	法外な
とすろ	あわびの内臓	どつけえす	取りかえす	どつてもねえ	法外な
どだ(な参照)	どうだ	どつちや(あ、お、ちて参照) 父		どつてもねえ	〃 (大きいもの)
とんだす	とり出す	とど	〃 主人	どつてだす	取り出す

とぼける(ねえ)	ぼんやりする、しらっぽくれる	どやすべ	どのようにしたらよいだろうか	どれ	どちらか、何れか(どれく どちらを食うか)
とぼでもねえ	途方もない	どやめぐ	群集するさま	どれ	どうしたのか
どまずぐ(がねえだ)	あわてる、まごすく	どよ	土用	どれあ	◇
どまた	いやいや、勿論あたりまえ、そりゃそうだ	どよぼす	土用干	どれでえ	どれだ
どまた	どうして又	どらぐ	道楽	とれる	獲れる、離れる、及第する
とまたげ	宿って行け	どら	どれ	どろくるめえ	泥まみれ
とまる(らねえ、れ)	宿る	どらうず	道楽の限りをつくす	どろつと	まどろむ間、間断なく、いつも
ともかく	とにかく	どらくなやす	道楽者	どろつべず	のべつまくなし、たびたび
どもがすら	けれども	どらくもの	◇	どろぼしやぶ	雪帽子、めだし帽
どもしえ	◇	どらねご	のら猫	どろめぐ	どろどろするさま
とんもぐれる	むくれる、ひっくりかえる	どらむすこ	道楽むすこ	どわどわ(た参照)	圧倒的な意味で「どわどわど流れた」
とんむぐれんこ	とんぼかえり	どらんこ(た参照)	腰に下げる煙草入	どわり	思いきり(どわりまげた)
どもなも	当惑した時の語でどうもこうも	とりこ	鳥、小鳥	どんがり	急に倒れるさま
どもは	◇	とりこ	つきあげた餅につける粉	とんがりこ	いつも怒っているナ
とめがね	望遠鏡	とりすめえ	物の終局	どんき	精液
どやす	どうするつもりなのか	とりばぐる	取り損う	とんげ	峠
どやすて	どのようにして	どりやどりや	どれどれ	どんころ	丸太

どんずぎあしえ	はち合せ	ながあれ	〃	ながら	長目(三尺以上)の薪
どんずまり	とどのつまり	ながあど	媒酌人	ながらなまず	いい加減
とんと	一向、少しも、全く	ながえすたなす	お邪魔しました	ながらはんちやく	中途はんぱ
どんばず	間ぬけ者	ながけ	長い	ながらべつと	グラジオラス
とんび	とび	なんげえ	〃	ながれる	泣かれる
とんびからす	いかの口	ながつけ	なかつた	ながれる	泣れる、中止になる
どんぶぐ	襟を折らぬ羽織	ながしえ	泣きなさい	なぎあがる	泣いた(憎しみを含む)
な		ながす	中止する、人工流産する	なきてえ	泣きたい
な		ながつれ	細長い	なんぎだ	難儀だ
な	ね(あのな)もの(んな)のなもふとた お前の物も同じだ、のは(鳥と飛とぶなはいえな)禁止(のむな、へえな)	ながね	丘陵でぎの地帯	なんぎつらす	難儀な思いをして
な		ながば	泣かない	なぎつめた	べそをか
な		ながみ	なかば	なぎべつちよ	泣きべそ
な		ながみずか	仲間	なぎびつき	いつも泣いている子供
な		ながみずか	仲間外れ	なぐ(がねえげ)	泣く
な		ながやすみ	はんでん様の労働者	なぐさむ	人をばかにする
な		ながやすみ	間食	なぐす	失う、消費する
な		ながよび	中指	なぐる	ぬりつける
な		ながあめ	梅雨、しけ、長雨		

なげえぐ 久しく
 揚げなす 僅少の
 なげる 捨てる、放任する、あきらめる
 なさげえねえ 情なし、残念だ
 なんじよ 如何、古語の「なでふ」
 なじよす どのように
 なじよにすけえ 〃
 なじよにすたらえがえ どうすればよいのか
 なんじよだ どうだ、工合はどうだ
 なんじよだす 〃 〃 (敬語)
 なんじよだす 相手に第三者の健康状態などの有無を問いかける
 なじよだべ どうだろうか
 なじよでも どうでも
 なじよであら どうしているか、病氣加減はどうか
 なじよな どんな
 なじよにががじよにがが どうにかこうにか
 なじよにする どうするつもりか

なじよにもかじよにも どうにかこうにか
 なす 梨
 なす(さねえ、しえ、へ) 産む
 ーなす ね、そうでしようね(さびなす||寒いね)
 なすあがり 産後
 なんすぎ(て参照) ひたい、頭
 なすぐ(がねえ、げ、げる) なつく
 なすて どうして
 なすみこ 情人、恋人
 なあすろ 苗代
 なんぞたでる 謎をかける
 なた 山刀
 なた 何か
 なたきり(そ参照) 自家製そば
 なただけえ 何だったか
 なただけえな 何か、何事か、そのさま
 なただ どうだ、どんな

なんだだえ どうですか(敬語)
 なんだだが どうだか
 なたたて どうしても(かならず)
 なんてがも 〃
 なたたてかなたたて 〃
 なたたて 何ですって
 なたたてよ 〃
 なたたて (怒るさま)
 なたたな どんな
 なたたに どんなに
 なたたにすてるべ 〃
 なたたにすてるべなす 〃 (敬語)
 なたたにすべ どのようなしたらよいだろうか
 なたたにすべ 〃
 なたたにすべ 何でもかでも
 なたたにすべ 〃
 なたたにすべ 〃
 なたたにすべ 〃
 なたたにすべ 非常に、甚だ

なんだかんだ	種々、雑多に	なにすたたて	何としても	なのまねす	何をしようとするのか (子供をたしなめる語)
なつちやがる	子供が歩きながら大人の腕に吊り下がる	なにすたて	〃	なんぼ	なんぼん
なつても	何でも、すべて、どんな物でも	なにすて	どうして	なんぼあげず	赤とんぼ
なでも	〃	なにすてらだ	何をしていたのか	なんぼ	何程、いくら
なつてもねえ	何ともない	なにすてらけあ	〃 (第三者の場合)	なんぼげえりも	何回も何回も
なで	縄手の略で畦道をいう	なにすてらえ	〃 (敬語)	なんぼくれえ	どれ程
なんであ	なになのか	なにすてらどえ	〃	なんぼぼり	〃
ななかで	ぜひ、なんとしても	なにすてらます	〃	なんぼすたたて	どう考えて見ても
ななかん	納豆	なにすてらますてあ	〃	なんぼすたて	〃
なと	なんと、どうしたのか	なにすに	何のために	なんぼすたても	〃
なとえ	何ですか、何ですって	なにすに	何だ(怒りを含むこともある)	なんぼだ	いくらだ
なにいずあねえ	何となく	なにやぐに	外に用事がないから専ら	なんぼだべ	いくらだろうか
なにしえ	何しろ	なねえ	ならない、かなわない (おめえになねえ)	なんぼだり	いくらなり(すきな位)
なにしえ	何をするのか	なのかの	何のかんの	なんぼも	いくらも
なにす	何をするのか	なのがび	七夕祭の翌日の休日、この日墓所を清掃し、七回食事と水泳をなし、七そばを食う	なまえぎ	なまいき
なにす	何ですか	なんのごた	何のことか	なまがす	むし菓子、高級な菓子
なんだどえ	〃 (敬語)			なまかすり	十分咀嚼せぬ、不十分な知識

なまぐしえ	なまぐさい	なめる	あなどる、ひそかに女と通じる	なんきえりも 何回も
なまくら	よくきれない	なも	何も(おらなもそきねえ) 私は何もしませんよ)	なんつごだねえぐ 何ということなしに
なまくらおどご	不真面目な男	なもほ	どうもはや	なんだずごどあねえ
なまっこ	不真面目	なもほに	いやはや誠に(なもほにこまたなす)	なんとも ひどく、非常に
なまござがり	ふざけざかり	なや	なあ、ね(親しみを含む)	
なまずか	なまじ	ならしゑる	習わせる、実らせる	に
なますにす	さんざん制裁を加える	ならすばだけ	行儀悪く躰が行届かない	にあ (おれにあねえ)
なまだら	のろま	ならば	出来うるならば	にあげら
なまぬれ	なまぬるい	なり	風さい	にやげる ゆでる、うでる
なまね	なまにえ	なりがみ	雷鳴	にが
なまほしえ	乾燥不十分	なりぎ	果物の樹木、気まま	にが(ぬ、の参照) 糠
なめえこぐ	躰が悪く人を人と思わぬ	なりぎにす	成り行きにまかせる	にがご
なめえこぐだ	人だ、助平だ	なる(らねえ、れえ)	習う、勉強する、鳴る(な)	にかめぐ
なめかだ	銅貨を左右の親指でまわし、片手でふせて表裏をあてる遊びで表面をかた裏面をなめといった	なわはね	縄飛び	にぎ(ぬ参照) 暖かい、暑い、にくにく
なめぐずら	なめくじ	なんかずおん	知ったふりして、そうなそうだと誇るさま	にぎ(み参照) 右、右手
なめと	かたつむり	なんかて	とかなんとかいつて	にぎり(こむ参照) 握り飯
		なんかり	など	

にぎり [▲] みす	にだり ^よ よったり	にやこ
にぐる [▲] めす	にちやにちや	煮合せの煮であま煮
にぎりそで [▲] (ぬ参照)	咀嚼の形容	にやどり(と参照)にわとり
にぐだめる	につかん	入梅
あたためる	入棺	にゅうへえ
にぐりざげ [▲] (ぬ参照) 濁酒	につつもさつとも	入梅
濁る(らねえ)(ぬ、め参照)	どうにもならぬさま	によ
にげえ	にでる(ねえ)(ぬ参照) 似ている	によつきり(の参照)
二階	にどえも(こ参照) 馬鈴薯	ぐうと立っているさま
にがい	にな	にらみざがな
にがい	になわ	膳の大皿にもった生肴
にじゆ [▲] がっば	にねえ(ぬ参照) 似ていない	にれる(ねえ)
二重廻し	にぼす	ぬれる
みかきにしん	いわしを煮て干したもの	にわ
にす	にほんかな	入口の土間
にすびと [▲] (ぬ参照) 盗人	二本どり、糸二本でぬう	にわすめえ
にたぎ	にほんかり	稲の調製終了祝、収穫祝 で餅を食す
煮炊	にまぐねえ(ぬ、の参照) 沼宮内	にわばれえ
にだぐる [▲] (ぬ参照) ぬる、なすりつける	にんめえ	にんど
煮えたつ	二枚	二度
にだまめえ	二枚合せ	ぬ
収穫米を寺に供える御魂米	にやう(ねえ)(ぬ参照) 似合う	ぬが(た、の参照) 糠
にやめ [▲]	にやが(た)	ぬが [▲] しって
にやにやす	にわか(た)	ぬが [▲] しえ
にやつとす	煮焼	ぬがしえ
		脱ぎなさい
		(敬語)